

令和3年 第1回定例会 産業建設委員長報告

令和3年3月16日（火）

8番 今井 義信です。

産業建設委員会に審査付託された議案について、3月8日、9日の2日間にわたり委員会を開催し、それぞれ慎重に審査を行いましたので、その経過及び結果についてご報告いたします。

議案第13号「令和3年度岡谷市一般会計予算」中、産業建設委員会に審査付託された部分について、審査の主な点をご報告いたします。

はじめに、所管する各部の、執行体制についてご報告いたします。

産業振興部においては、組織は農業委員会を農林水産課に含め、3課1室で組織し、正規職員40名、会計年度任用職員36名の合計76名。建設水道部においては、3課で組織し、正規職員61名で会計年度任用職員67名、合計128名であるとのことでありました。

それでは、款ごとに審査の内容についてご報告いたします。

はじめに、歳出、2款 総務費 市有林整備事業について、

委員より、岡谷小学校跡地の管理を農林水産課で担うことになるが、令和3年度の内容と今後の予定について質疑があり、令和3年度は、植栽された箇所の下刈を行っていく。また、鹿等の侵入による樹木の食害を防ぐため、薬の散布により鳥獣害防止を図るとのことであり、ある程度樹木が成長するまでは、同様の対応を行う予定であるとのことでありました。

次に、5款 労働費について、

「働きやすい職場づくり応援事業」について委員より、多様な人材確保及び定着化のため、これまでの女性に限定せず、支援対象者を拡充することで充実は図られているが、就業規則の変更に係るソフト面での補助額が据え置かれた理由

について質疑があり、実績を勘案しながら令和3年度は据え置きとさせていただいているが、企業側で今後どのような取り組みが補助対象となってくるのか、どんなところに経費が必要なのかなど実態把握に努め令和4年度に向けて検討を継続してまいりたいとのことでありました。

次に、6款 農林水産業費について、

「オープンエアマーケット事業」について、委員より、中心市街地の商業等へのシャワー効果について質疑があり、当該事業は令和2年度から実施をしているが、新型コロナウイルス感染症対策として産業振興部の中で開催できる施設を検討する中で、マルベリー広場とした。令和3年度に於いてもマルベリー広場を中心に開催を計画しているが、中心市街地の活性化にも考慮したいとのことでありました。

次に、7款 商工費について、

はじめに、「商業振興事業」について、委員より、商業等振興補助金の補助分の増額分について補助内容と件数について質疑があり、中小商業者が店舗等の改修に要する経費や賃借料の一部を補助するもので、令和3年度はラオカヤから移転する店舗分として新規店舗改修に対する補助16件、賃借料に対する補助18件分を予算計上しているとのことでありました。

委員より、予定をしている事業者の声をしっかり聞いて適切な対応をしていただきたいとの要望がありました。

次に、「シルキーバス車両更新事業」について、委員より、シルキーバスの運行ルート等についての見直し等について質疑があり、実態調査を今後も進めながら市民の声を聞き利便性を図っていくが、シルキーバスのみならず、福祉タクシーも含めた公共交通網全体について検討をしなければならない時期となっており、令和3年度から方向性を検討してまいりたいとのことでありました。

次に、「商工業振興条例補助金」について、委員より、比較的大きな企業を対象とした制度であり、小さくても頑張っている企業に対する補助の見直し等の必要性を感じているが考えについて伺いたいとの質疑があり、当該補助金は、これまでに、補助金額や従業員要件について検討を進めてきた経過があり、必要に

応じ見直しを図ってきている。そのような中で、企業規模や従業員数等による申請要件は設けておらず、比較的補助額が少ない企業や10名以下の企業へも補助した経過もある。岡谷市域は、近隣の市町村に比べ地価が高いため、より安価な工場用地を求める企業に対する流出防止や新たな企業を誘致するために必要な行政制度と考えているとのことでありました。

次に、「モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト事業」について、委員より、これまではロケットを打ち上げるという一つの評価基準があったが、今後の評価基準について質疑があり、これまでの小型ロケットプロジェクトにおいても人材育成に重きを置いていたがゆえに、評価がわかりづらかったが、今後は、提案型技術者の育成だけにとどまらず、事業を通じ若手人材を諏訪県内に流入させることにより、関係人口の創出とさらには諏訪圏の企業への就職に結びつける取り組みとするため、若者のインターンシップへの参加であったり、県外の参加者であったり、関係人口の創出に関わる部分等が評価の基準となってくるとのことでありました。

次に、「岡谷市中小企業融資制度」について、委員より、特別経営安定資金は、緊急対策で行われた資金制度に比べ売上高の減少率が5%から20%に引き上げられハードルが高くなっているのではないかと質疑があり、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、真に売り上げが上がっていない事業者を利用いただくために新設をしているとのことでありました。

また、委員より、持続化給付金に代わる現金給付の実施についての質疑があり、企業とヒアリングをする中では、ワンショット的な支給についても意見はあるが、市としては、経営を安定させ、経済を回していく取り組みを重点的に行ってまいりたいとのことでありました。

次に、「観光宣伝費」について、関係団体補助金のうち、「岡谷へ行こう」関係人口等創出・拡大事業について、委員より、レンタサイクルのeバイクの保守管理について質疑があり、定期的な保守は購入する業者をお願いするが、日常の保守管理については自転車の専門家にアドバイスをいただきながら、駅構内に設置される観光案内所の職員が対応できるようにしていくとのことでありました。

また、委員から岡谷蚕糸博物館の e-バイクとの連携について質疑があり、現時点においては、自動車で来られる方、電車で来られる方と様々であるため e-バイクの乗り捨て利用サービスまでは考えていないが、将来的には諏訪圏全体の連携ができるように検討してまいりたいとのことでありました。

次に、「岡谷産繭買取事業」について、委員より、令和3年度に向けて養蚕事業者に対し、岡谷産繭の安定供給と経営基盤の安定化のための事業であるが、ブランド力の向上に寄与するののかとの質疑があり、岡谷ブランドの核となるオール岡谷産シルク製品の製品化のためには、岡谷産の養蚕繭の安定供給は不可欠である。現在、市内には養蚕業者が1者おり、蚕室等の整備を通じ、今後は収繭量（しゅうけんりょう）を増やしていく予定でいる。本事業において、繭の安定供給の確保と経営基盤の安定化を図ることで、オール岡谷産シルクの製品化、岡谷ブランドの創出につなげてまいりたいとのことでありました。

次に、「地域おこし協力隊ブランド推進事業」について、委員より、令和3年は3年目となり結果が求められるが、協力隊についての取り組み状況についての質疑があり、地域おこし協力隊の活動内容については、これまでも養蚕振興、ブランド化の両面で、それぞれ活躍いただいているが、令和3年度は、新規事業である「岡谷シルク推進事業」にも積極的に参画いただき、しっかりと成果が出るよう取り組んでまいりたいとのことでありました。

次に、「オール岡谷産シルク製品開発事業」について、委員より、継続的なビジネスにつなげるための繭の買い取りから製品開発、製品販売までのコストの考え方について質疑があり、今後、岡谷ブランドとしてPRしていくオール岡谷産シルク製品の価格設定にもよるが、岡谷ブランドとしての価値が見いだせるよう取り組み、事業の安定化につなげてまいりたいとのことでありました。

次に、「博物館費」について、委員より、岡谷蚕糸博物館の令和3年度に向けて多くの方が来館できるようにするための方策について質疑があり、コロナ禍において、来館者数が減少傾向にある中、今年度は、産業振興部内で連携を図りながら、オープンエアマーケットや、ものづくりフェアアーカイブ展などと連携して誘客促進を図ってきた。来年度も引き続き、部署と連携した誘客促進に取り

組むとともに、新しい岡谷シルク推進事業における製品の情報発信や、岡谷でしかできないイベントの開催、さらには、服飾系の専門学校とのワークショップなども開催し、情報発信を続けることにより、多くの方に岡谷蚕糸博物館、シルクファクトに来てもらえるよう努力してまいりたいとのことでありました。

次に、8款 土木費について、

はじめに、「道水路維持補修事業」について、委員より、各区から提出される土木要望に対しての実施状況と区への回答方法について質疑があり、土木課に関する要望が103カ所あり現地踏査をしながら緊急性のあるものは早急に維持補修を行い、その他については優先順位をつけながら選定を行い令和3年度は42カ所の箇所付けとなっている。また、各区に対しては、年度初めに訪問を行い要望箇所の状況報告を行っているとのことでありました。

委員より各区からの要望に対しては、文書で回答することにより、区役員が交代しても継続的に状況の把握ができるように配慮願いたいとの要望がありました。

次に、「道路新設改良事業」について委員より、生活道路安全対策事業の委託料について質疑があり、西堀新道においてビックデータを利用した安全対策事業を進め、ハード面での交通安全を図るための実証実験も予定しているとのことでありました。

委員より、西堀新道は、交通量も多くかなりのスピードを出す通行車両もあることから、歩行者の交通安全には引き続き配慮をお願いしたいとの要望がありました。

次に、「橋梁維持補修事業」について、橋梁点検はどのような橋梁が対象となりどのように点検されるのか質疑があり、点検は、市全体の橋梁198橋について、5年に1度実施することとされており、橋長の短いものは土木課職員で行うが、橋長が長く高さのあるものについては委託をしており、令和3年度は、14橋について、委託実施して行くとのことでありました。

次に、「河川改修事業」について、委員より、予算計上されている3本の川については、緊急性があって実施されるのかとの質疑があり、近年の災害を勘案し

毎年行っている河川パトロール等において必要な個所について実施するものであるとのことであります。

委員より、河川改修を積極的に進め防災に寄与していただきたいとの要望がありました。

次に、「諏訪湖周サイクリングロード整備事業」について、委員より、事業推進にあたり地元区との協議について質疑があり、令和3年度以降の整備個所は、民地と隣接する部分もあることから、区をはじめ地元住民への説明会も必要に応じ開催してまいりたいとのことであります。

委員より、サイクリングロード整備区域内では樹木管理等の要望もあることから、利用者はもちろんのこと、周辺で生活している住民や区にとっても環境が良く使いやすいサイクリングロードになるように地元の意見を聞きながら整備を進めていただきたいとの要望がありました。

次に、「市営住宅管理費」について、委員より、市営住宅の住民の高齢化について質疑があり、高齢住民の見守りは家主としての責務であり福祉サイドとも相談しながら検討が必要と考えているとのことであります。

次に、討論について報告いたします。

本予算は、概ね必要な予算が盛り込まれていることは評価できるが、産業振興の分野では、商工業振興条例補助金で工場新設・増設及び工場等移転に対する補助は、小規模事業者に対する支援が弱く均衡を欠いており、見直しをすべきである。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の中で苦しい営業を強いられている事業者への支援について、旅行代理店など観光業、宿泊業、旅客運送業 飲食業などの事業者に対する大胆な支援が盛り込まれておらず、製造業についても、中小零細企業を中心に、長期にわたり深刻な事態が継続し、廃業も検討せざるを得ない深刻な事態に対し、直接的な支援も盛り込まれていない。

土木、都市計画の関係では、市内の車道、歩道の傷みが激しく、各区からの土木要望にも十分応えられていないことから、さらなる増額の対応が必要である。

また、市営住宅については、長寿命化計画によって管理戸数を大幅削減していく方向で進んでいるが、低廉な家賃で入れる市営住宅の必要性を考えると、問題であり、産業建設委員会に審査付託となった部分については、反対する。

一方、本予算は、令和3年度が第5次岡谷市総合計画の3年目であり、「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現に向けて着実に前進しなければならない年であり、新型コロナウイルス感染症を乗り越える「新たな日常の実現に向けた変革の年」であることから、重点施策として【地域活力の再興】と【幸せを実感できる日常づくり】を掲げており、新たな日常の実現が大いに期待できる予算であり本議案に賛成する。

また、本予算の新規事業の岡谷シルク推進事業や岡谷産繭買取事業などの岡谷シルク製品の開発事業は、「新しいシルク文化の創造」という点を評価する。地域おこし協力隊により、今までの「繭から糸を画期的な機械で大量生産し輸出していた。」という歴史の中にあった文化から、ここで、出来上がったシルクそのものをどう活用するのかという方向に進んでいることは、岡谷市の新たな文化が芽生える始めの段階ととらえる。

働きやすい職場づくり支援補助金については、ソフト面に関し限度額が据え置かれており、就業規則を作成していない、長いこと変更していない企業が多いことから増額を求めるが、積極的に変更していく視野を持って臨むことを要望し、産業建設委員会に審査付託となった部分について賛成する、との討論がありました。

以上、審査の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第15号「令和3年度 岡谷市地域開発事業特別会計予算」について、委員より、具体的な用地取得の予定について質疑があり、都市計画道路岡谷川岸線が令和3年度から事業化されることから、代替地等に対応するため予算計上しているとのことでありました。

また、委員より令和3年度以降の土地の処分状況について質疑があり、湖畔公園関連公共事業用地・代替地や駅南地区関連公共事業代替地など開発に合わせて土地利用が可能なところの売却を想定しており、処分が可能なところを積極的に売却していきたいとのことでありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたのでご報

告いたします。

議案第16号「令和3年度 岡谷市分収造林事業 特別会計予算」については、委員より、令和2年度に比べ、予算額が減少している状況について質疑があり、予算額については毎年度、事業に必要な予算を計上しており、国からの予算が削減されたものではないとのことでありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたので、ご報告いたします。

議案第18号「令和3年度 岡谷市温泉事業特別会計予算」につきましては、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第21号「令和3年度 岡谷市水道事業会計予算」について、委員より、水道施設再構築事業における宗平寺水源改造工事と今井上向配水池築造工事本体築造工事について質疑があり、宗平寺水源改造工事は、令和3年度において管理棟の移設と耐震化を行い、今井上向水源地へ供給するポンプの改修を行うとのことでありました。また、今井上向配水池築造工事の本体築造工事は令和3年度中に本体が完成し設備を整え令和4年の一部供用を目指しているとのことでありました。

次に、討論について報告いたします。

水道事業は、令和3年度においても安全でおいしい水の供給のための予算を編成されている。本予算には適切な水質管理を進めながら老朽鉄管の更新や管路の長寿命化、耐震化工事さらに今井上向配水池の建設など岡谷市水道事業基本計画に基づく再構築が計画的に進めていくことなどが盛り込まれている。水道料金については令和2年度から令和4年度までの3年間は据え置きで対応されており妥当なものである。引き続きの経営努力によって水道料金の引き上げがされないよう要望し、本議案に賛成する、との討論がありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたので、ご

報告いたします。

次に、議案第22号「令和3年度 岡谷市下水道事業会計予算」について、委員より、ストックマネジメント（長寿命化）事業について質疑があり、平成29年度からストックマネジメント事業に基づく工事に着手をしており、市内を15エリアに分け、これまで3つのエリアの点検と必要な工事を行ってきた。下水道の延長は約292キロメートルある。1エリアが約20キロメートルとなり、令和3年度においても点検調査を行い必要な個所について管路更生工事を行っていくとのことでありました。

また、委員より郷田二丁目の雨水渠整備の進捗状況について質疑があり、郷田二丁目の山下幹線は、計画全体で406メートルを予定しており、令和5年度の完成を目指している。令和3年度は引き続き諏訪信用金庫の上流100メートルを予定しており完成すると、全体のおよそ半分が完了する予定であるとのことでありました。

さらに、委員より、総合地震対策事業における耐震化の有効性について質疑があり、地震災害の規模が異なることから同様の工法でも被害状況が異なるが、破損が生じたとしても下水道としての機能が損なわれないような対策としているとのことでありました。

次に、討論について報告いたします。

下水道事業は、未整備地区の解消や未接続世帯への対応を進めながら管路の長寿命化の改修や耐震化を計画的に進めており管路施設の維持管理を確実に進める一方で、長年にわたって下水道使用料を据え置くという措置が続けられており、令和3年度も健全な下水道事業の運営を進めていくための予算が盛られていると考える。また、雨水渠についても豪雨時の安全安心を高めるために必要な対応であり着実に整備が進むことを期待し、本議案に賛成する、との討論がありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

報告は以上であります。